２０２４年１２月１日（日）

日本基督教団　大宮教会

大宮教会ビジョン
「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
（マタイによる福音書 28：19～20）

降誕前第４主日

待降節（アドベント）第１主日

朝第１礼拝 9:00～10:10
朝第２礼拝 10:30～12:00

〈神の招き〉
前　　奏　①いざ来ませ 異邦人の救い主 ブクステフーデ
　　②いざ来ませ 異邦人の救い主　バッハ
招きの詞　イザヤ書９：１～６
交読詩編　２４：１～１０
讃美歌　２４２（1節のみ）

〈神の言葉〉
聖　　書　創世記１：１～５
（旧約　聖書協会共同訳　1 頁）
ヨハネによる福音書１：１～５
祈　　祷　（新約　聖書協会共同訳 160 頁）
転会式②
讃美歌①　５５
奉　　唱②　２４３
説　　教　「初めに言があった」熊江秀一牧師

今週の御言葉（ヨハネによる福音書 1：1～2）
初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。

祈　　祷
黙　　想
讃美歌　２３１
聖　　餐
讃美歌　８１

〈神への応答〉
信仰告白　日本基督教団信仰告白
献　　金
主の祈り
宣教報告②
頌　　栄　２７
派遣と祝福
後　　奏　①いざ来ませ 異邦人の救い主　シャイト
　　②いざ来ませ 異邦人の救い主　バッハ
宣教報告①

夕礼拝 18:00～19:10

〈神の招き〉
前　　奏　いざ来ませ、異邦人の救い主　ヴァルター
招きの詞　イザヤ書９：１～６
交読詩編　２４：１～１０
讃美歌　２１８

〈神の言葉〉
聖　　書　イザヤ書２：１～５
（旧約　聖書協会共同訳　1048 頁）
ローマの信徒への手紙１３：８～１４
祈　　祷　（新約　聖書協会共同訳 287 頁）
讃美歌　４４０
説　　教　「眠りから覚める時」甲賀正彦牧師
祈　　祷
黙　　想
讃美歌　５７３
聖　　餐
讃美歌　８１

〈神への応答〉
信仰告白　日本基督教団信仰告白
献　　金
主の祈り
宣教報告
頌　　栄　２７
派遣と祝福
後　　奏　いざ来ませ、異邦人の救い主　パッヘルベル

次週の礼拝（１２月８日）
①９：００、②１０：３０、夕１８：００
説教「まことの光が世に来た」熊江秀一牧師
イザヤ書 60：1～5、ヨハネによる福音書 1：6～13
交読詩編９６：１～１３
讃美歌２４２（1・2節のみ）、５６、２２９、２７

＊礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。＊◦は祈祷当番の方。＊①は朝第１礼拝、②は朝第２礼拝、夕は夕礼拝。

■今週の祈祷課題■　独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。
1．キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2．東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に　3．聖書全巻通読リレーの為に
4．アドベント（待降節）の歩みの為に　5．12 月の宣教の為に　6．牧師・伝道師の為に
7．イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に　8．病気の兄姉の為に

＊関東教区お祈りカレンダー　岩槻教会　春日部教会　越谷教会

◇先週の説教より　「主を迎える時」　詩編１１８：１～２９、マルコによる福音書１１：１～１１　熊江秀一牧師

アドベントを前にした終末主日に、主のエルサレム入城が与えられた。

この時、人々は主イエスを王として迎えた。上着や葉の付いた枝を道に敷いて主を迎えた姿は、王を迎える時の姿である。主イエスを我が王として迎えることは大切である。私たちは、我が王は自分自身だと思い込んでいる。その時、私たちはどうだったか。力やお金、神ならぬものに頼り、罪にしばられた状態にあった。そんな私たちを救い出すために主が来て下さった。この主を我が王として迎えよう。

この時、主は子ろばに乗って入城された。普通、王は馬に乗って入城する。しかし主は馬に乗った力で支配する王としてではなく、ろばに乗った柔和な王として入城された。主は子ろばのような、小さく、弱い私たちをも「主がお入り用なのです」と用いて下さる。その時、私たちはありのままの姿で主をお乗せすればよい。その時、私たちも主の栄光の中を進む。私たちは主をお乗せする子ろばである。

主が子ろばに乗って入城された時、人々は詩編 118 編 25～26 節を歌って迎えた。「どうか主よ、救ってください」（ホサナ）、「我らの父ダビデの来るべき国に祝福があるように」。人々は主を迎えた喜びに満ち、神の救いを求めて、祭司が歌う歌を、自分たちの歌として歌った。

しかしこの時、人々が歌った詩編 118 編の中には、主がエルサレムに来られた意味が込められていた。「家を建てる者の捨てた石が、隅の親石となった」。主イエスは家を捨てる者に捨てられた石、隅の親石となる。それが十字架の出来事である。

主は柔和な王となり、隅の親石となって十字架の救いを成し遂げるためにエルサレムに入城された。この「私たちの目には驚くべき」「主の業」をほめたたえ、主を迎えて歩もう。